

説明書

(令和6年2月19日作成)

・不誠実対応-43

アルプスの森(施設長:宇津慎史)が吹田市に提出した監査指導事項改善報告書(令和5年9月10日)に以下の記載があった。

「管理者の交代が令和5年9月1日より●●から代表社員 宇津慎史に変更する届け出が受理されました。管理者に宇津慎史がなることによって児童指導員からはずれ送迎運転手を供給することによる送迎安全強化及び情報共有ができるようになります。」

宇津慎史は数多くの悪質な嘘・隠蔽を繰り返してきた人物である。安全の為に必要な情報を隠蔽し、安全に誘導する取り決めを秘密裏に破っていた超本人が宇津慎史であることが現在、既に判明している。従って悠生君の遺族としては、悪質な嘘・隠蔽を繰り返した宇津慎史が管理者になることにより、さらにアルプスの森(施設長:宇津慎史)の悪質な隠蔽体質を強化させようとしているように思われた。

以下に主な宇津慎史が明らかに関与している主な悪質行為の一部を記載。

●悪質な嘘-① 事故当時、運転手はしっかりと悠生君の腕を掴んでいたと言う嘘をつくように運転手に指示していた。

警察の調べ対し、運転手(48)はすでに逮捕されている施設の運営会社代表の宇津慎史容疑者(60)から、「手をつかんでいたというその説明のままにしておけ」と、口裏合わせをするように指示されたと話しているということです。

(ABC ニュース 2023年12月22日引用)

●悪質な嘘-② 存在していなかった送迎マニュアルが事故前から存在していたとする嘘をついた。

施設の代表・宇津慎史容疑者(60)と兄の雅美容疑者(65)(いずれも業務上過失致死の疑いで逮捕)が、事故後の市の聞き取りに虚偽の説明をしていたことがわかったのです。当初、宇津容疑者らは「送迎マニュアルを作成していたが、運転手が独断で守らなかった」と説明していましたが、その後の捜査で、マニュアルは事故の直後に作成されていたことが判明。

逮捕前の調べに「(慎史容疑者と雅美容疑者の)2人で相談して作成した」「事故が起きたのにマニュアルもないと思われるのが嫌だった」と話していたということです。

(YTV 2023年12月22日引用)

●悪質な嘘-③ 対外的には悠生君の誘導において単独ではしていないと説明してたが、実際は単独での誘導を常態的に行っていた。

「池は飛び込んだ件を聞き、当事務所は神崎川の横にあるので、絶対入らないように車の乗降時は、嚴重に注意をしている、目を離すとすぐに飛び出すので、一人ではしないようにする」
(サービス担当者会議 [2022年7月27日]会議録)

捜査関係者によると、慎史容疑者と、兄の施設職員・宇津雅美容疑者(65)は施設駐車場で送迎者から清水君を降ろす際、急に走り出す特性を踏まえて職員2人で対応する取り決めだったのに、常態的に職員1人に対応させ、昨年12月9日午後、清水君を死なせた疑い。
(読売新聞オンライン 2023年12月12日引用)

府警は、送迎車の乗降時は職員2人で対応しないと清水さんが道路に飛び出し、近くの川に飛び込む恐れがあったと判断。こうしたことを清水さんの特性から予見できたのに、職員を指導する注意義務を両容疑者が怠り、職員1人で対応することを常態化させて死亡事故を発生したとみている。

(毎日新聞オンライン 2023年12月12日引用)

清水さんは自閉症や知的障害などと診断され、突発的に走り出すほか、水への強いこだわりがあった。職員はこうした特性を把握しており、他の職員と計2名で対応しなければ、事故は起こると予見できたと府警は判断した。職員は容疑を認め、「2人で対応すべきだとは思っていたが、(施設代表らに)言えなかった」などと話したという。
(朝日新聞デジタル 2023年12月22日引用)

警察が押収した施設の報告書には悠生さんが2018年以降に3回、送迎などの際に飛び出すような場面があったと記載されていたことが分かりました。急に飛び出して事故が起こる可能性は明らかで、それを認識していたにもかかわらず宇津容疑者らは1人での対応を漫然と放置していたとみられます。

(YTV 2023年12月22日引用)

●悪質な嘘-④ 有印私文書偽造を行っていた。

「身体拘束に関する同意書(令和4年10月25日付)」「(不誠実対応-41)及び、「個別支援計画書(令和2年4月28日付)」「(不誠実対応-40)において、保護者に成りすまし署名・捺印をした書類を作成していたことが判明している。

●悪質な嘘-⑤ 新聞の取材に対し事故の予測はできなかつたと明らかな嘘をついている。

読売新聞(2023年12月12日)の記事の記載

慎史容疑者は逮捕前、読売新聞の取材に「事故が起こるとは予想できなかつた」と説明。

●悪質な隠蔽-① 過去に2度も禁止されていた単独での誘導を行い、飛び出しが発生しており、さらに悠生君が川に飛び込もうとした重大ケースが発生していたのに隠蔽した。

警察のその後の調べで、この生徒が2019年にも送迎車から降りたあと行方不明になり、現場の川に飛び込もうとしているところを職員に保護されていたことが分かりました。警察によりますと、施設側はこの時も1人で対応していて、両親や自治体には報告していなかつたということです。

調べに対し、宇津代表らは、事実関係を認めたくなくて「自治体の監査を受ける恐れがあつたので報告しなかつた」などと供述しているということです。

(NHK News 2023年12月22日引用)

府警によると、亡くなつたのは清水悠生さん=当時(13)=で、2018年3月と19年12月に送迎車から敷地外に飛び出して一時行方不明になって施設近くの水路に入ったり、川に飛び込もうとしたりした。

行方不明などの事故が発生した場合、施設側は自治体や保護者に報告する必要があるとされているが、逮捕された代表社員宇津慎史容疑者(60)らは吹田市に報告しなかつた。当時対応した職員にも「悠生さんの母親には一切話さないように」と口止めをしていた。

(共同通信 2023年12月22日引用)

●悪質な隠蔽-② 常習的に集団で暴行を繰り返していた。

大阪府吹田市の放課後デイサービス「アルプスの森」の代表宇津慎史容疑者(60)ら3人は、今年2月から3月にかけて施設内で、当時15歳の利用者の少年を殴ったり床に叩きつけたりした暴行の疑いで逮捕されました。警察によりますと、施設の防犯カメラには、この少年のほかにも当時15歳と13歳の少年が宇津容疑者らに複数回にわたり暴行を受ける様子が映っていたということです。

警察は、施設内で日常的に利用者への暴行が繰り返された可能性があるとみて調べています。

(MBS News 2023年11月22日引用)

逮捕容疑は共謀して2月23日と3月1日、吹田市芳野町の施設「アルプスの森」で、バランスボールで男子高生の顔を殴ったり、髪をわしづかみにして床に頭をたたきつけるといった暴行を加えたとしている。男子高生には重度の知的障害があり、2月23日が最初の利用日だった。

(産経新聞 2023年11月21日引用)